

地方深耕論

◎

中央の各界で活躍する山陰河原出身者やゆかりの人に山陰地方の振興策などを語ってもらう「地方深耕論」。今回は浜田市出身で、島根県西部出身者らでつくり、首都圏を中心に石見神楽の公演と魅力発信に取り組む「石見神楽東京社中」代表の小加本行広氏。

ファン増やす好機

文化庁が今年5月、石見神楽を島根県西部9市町の「神々や鬼たちが躍動する神話の世界／石見地域で伝承される神楽」として日本遺産に認定した。出身者としてとってもらえ、今後、首都圏での活動を通して興味を持った人たちが島根県に足を運び、鑑賞・体験してもらえようという取り組みを加速させていく。

東京社中は設立準備期間を含め、ほぼ手弁当で約10年間活動してきた。当時は数人だけだったメ

ンバーは25人にまで膨らみ、県西部出身者だけでなく石見神楽に興味を持った関西、九州出身者も参加している。

意識してきたのは石見神楽をブランディングして首都圏のファンを増やすことだった。年間30回程度の公演に加えて、近年は衣装を着たり舞ったりして石見神楽を体験するワークショップ、東京社中のメンバーとの交流会も積極的に開いている。

ワークショップには40〜50人の参加があり、親子連れや他の伝統芸能に取り組んでいる人たちなど、幅広いつながりを生むきっかけになっている。

今年からは他分野のゲストを招いて魅力についてざっくりぼろんに語ってもらうインターネット番組を収録し、「YouTube」や交流サイト「フェイスブック」を使って配信し始めた。

石見神楽東京社中代表

小加本 行広氏



こがもと・ゆきひろ 浜田市三隅町出身。高校卒業後、横浜市内の専門学校に進学し、デザイナーを経て、2011年から島根県東京事務所（にはんばし島根館）で勤務。幼少期から石見神楽の社中で活動した経験があり、同年に石見神楽東京社中を立ち上げ、代表に就いた。37歳。

「人」の魅力発信に特化

2020年の東京五輪・パラリンピックではスポーツだけでなく日本の文化・芸術・芸能にも世界中から注目が集まる。東京社中としてもこの機を逃さず、国内外の観光客が集まる靖国神社や富岡八幡宮など都内の有名神社での公演を計画している。

他の芸能と差別化

これまで地道に活動してきたが、さまざまな芸能が集中する東京の中では石見神楽はまだ「知る人ぞ知る」程度でイメージがうまく定着していない。ただ鑑賞してもらっただけでは他の芸能との差別化ができない。石見神楽が抜きん出るためには「人の魅力発信に特化すべき」との結論に行き着いた。

社中で活動している人たちは純粋に石見神楽が好きで楽しんでいる。情熱を持って打ち込んでいる人たちの背景や熱量をうまく可視化して発信する仕組みを作り、「あの人が出演するから見に行こう」という動機づけができれば、都会地でさらにファンを増やすことができる。

石見神楽を生かした観光振興には東京と地元の連携が重要。県西部では体験プログラムを組み、都会地から観光客を受け入れる機運が高まってきた。これまで以上に密な情報交換を行いながら連携を深めていけば、確実に観光振興につながる。東京社中の活動を通じてつくってきた人脈をいかして今秋、首都圏から地元へ向けた石見神楽体験ツアーの第一弾が開催できる見込みも立った。

モノ、コト、ヒトが世界中から集まる東京は石見神楽の可能性を広げる上でうってつけの場所だ。魅力を日本中や世界中に発信するため、東京社中が起点になりたい。（聞き手は東京支社・白築亮）